畜産学部肉用牛科の概要

学生数の推移

期	定員	男	女	計
41期生	25	21	4	25
42期生	25	17	4	21
43期生	25	21	5	26
44期生	24	20	4	24
45期生（2年生）	25	19	4	23
46期生（1年生）	25	22	3	25

職員

学　部　長　教授　新小田修一

２年生担任　教　授　新牛込純治　　准教授　栗山典友喜

１年生担任　教　授　木之下明弘　　教　授　下副田充志

主任技術補佐員　　満園　康雄　　宮内　博光

主な行事等

月	1年次		2年次	
4	入学式		始業式	農場担当
5	トラクタ（単体）研修　就農相談会 校内体育大会		校内体育大会	
6	トラクタ（けん引）研修 経営プロジェクト計画検討会（1年） 農場引継（受け）		農場引継（渡し）	
7	卒業論文計画発表会（1年）	農場担当	経営プロジェクト実績発表会（2年） 国内研修	
8	夏休み（農場管理当番）		家畜商講習会	
9	九州地区体育大会　熊本大会		九州地区体育大会　熊本大会 卒業論文実績発表会（2年）	
10			長期農家留学研修（40日間）	
11				
12	農大祭，校内プロジェクト発表会		農大祭，校内プロジェクト発表会 2級削蹄師認定講習会・試験	
1			家畜人工授精講習会	
2			退寮式	
3	学年終了		卒業式	

畜産学部肉用牛科履修科目一覧

科　目　名		１年	２年	AI必須
教養科目	人間関係論		●	
	くらしと法律		●	
	体育	●	●	
	外国語（英会話）	●	●	
	情報処理	●		
共通科目	農業経営基礎	●	●	
	農業簿記	●	●	
	農業気象概論		●	
	農業機械利用Ⅰ	●		
	農業機械利用Ⅱ	●		
	農業機械応用	●		
	農業概論	●		◎
	環境保全型農業		●	
	農産物の安心・安全		●	
	土壌肥料基礎	●		
	農業法人		●	
	農業協同組合とリーダー		●	
	ＧＡＰ概論	●		
	６次産業化論		●	

科　目　名		１年	２年	AI必須
専攻科目	家畜栄養	●	●	◎
	家畜飼養管理		●	◎
	畜産施設		●	
	家畜育種	●	●	◎
	家畜解剖Ⅰ	●		◎
	家畜解剖Ⅱ	●		◎
	家畜生理	●		
	家畜繁殖	●	●	◎
	飼料作物	●	●	
	家畜衛生	●	●	
	家畜人工授精	●		
	畜産環境保全	●		
	肉用牛経営各論	●	●	◎
	畜産流通加工	●		
	畜産政策		●	◎
	生物工学総論	●		◎
	受精卵移植		●	◎
	家畜登録審査	●		◎
	卒業論文	●	●	
	生物工学実習	●	●	◎
	専攻学習	●	●	◎
	農家留学研修		●	
	スマート農業概論	●		

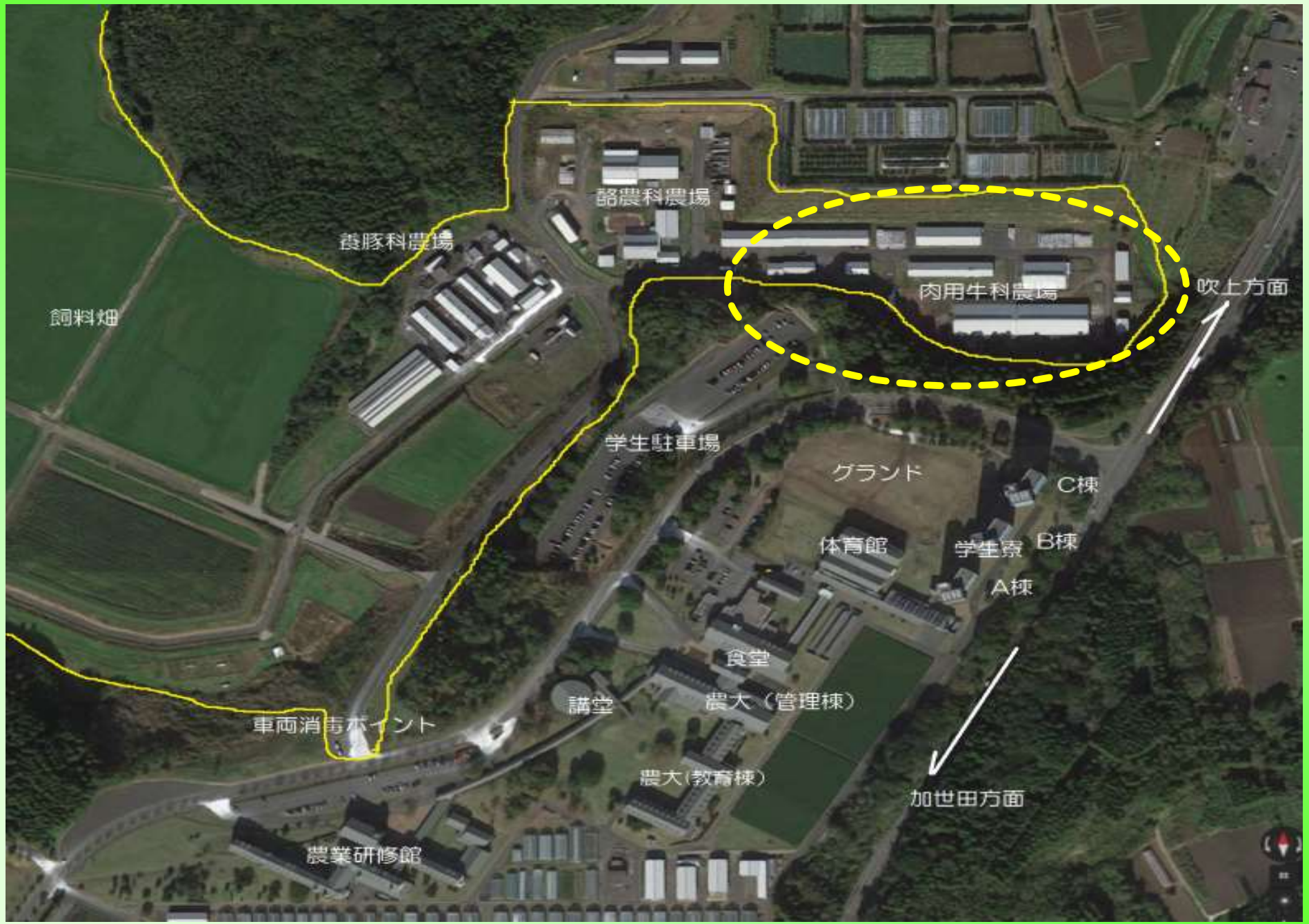
取得可能な資格等

（１）大型特殊自動車運転免許（農耕用）
（２）毒物・劇物取扱者資格
（３）危険物取扱者資格
（４）大型特殊自動車けん引免許（農耕用）
（５）家畜商免許資格
（６）家畜人工授精師免許資格(牛)
（７）２級牛削蹄師
（８）フォークリフト講習
（９）小型車両系講習
（10）玉掛け講習
（11）アーク溶接
（12）小型移動式クレーン

進路状況

進路区分	４２期	４３期	４４期
就農（直接，法人）	１７	２５	１５
研修（研修後就農）	０	０	２
就職（農業団体, 企業, 公務員）	２	１	３
進学（研究科，４大）	２	０	４
計	２１	２６	２４

肉用牛科農場


酪農科農場
養豚科農場
肉用牛科農場
吹上方面
飼料畑
学生駐車場
グランド
C棟
体育館
学生寮
B棟
A棟
食堂
講堂
農大（管理棟）
車両消毒ポイント
農大(教育棟)
加世田方面
農業研修館

畜産学部　肉用牛科施設

肥育牛舎
生産牛舎
育成牛舎
飼料ロール置き場

隔離牛舎
ﾉｺｸｽﾞ庫
堆肥舎

機械格納庫
生物工学実験棟
飼料庫

解剖実習室

農場実習教育

(1)目的

- 農業大学校畜産学部肉用牛科の学生を教育するための実習，研究等を行う農場を管理運営している。
- 農場において，講義等により学んだ理論・知識や技術を用い，学生自ら肉用牛の繁殖から肥育までの飼養管理や飼料作物の栽培管理，糞尿処理等の作業を行う。
- 肉用牛農場の管理運営を実践することにより，肉用牛経営に必要な技術習得と就農等に向けた意欲や経営者意識の醸成を図る。
- 学生が各々課題を設定して調査研究活動に取り組むことにより，課題解決能力の向上を図る。

(2)　農場実習期間：７月から翌年６月までの１年間

(3)　プロジェクト学習

「経営プロジェクト」

講義，研修等での学習を農場で実践し，飼養・栽培技術習得や農場運営の仕方，経営管理を学ぶ。

「研究プロジェクト」

専門的な知識技術を深めるため，学生個々人が課題を持ち，試験及び分析等を行い，結果を取りまとめて発表する。

(4)　専攻コース

生産コース，子牛コース，肥育コースに分かれて飼養管理と経営プロジェクト，研究プロジェクトに取り組む。

専攻コース	４５期生（２年生）	４４期生（卒業生）
生産コース	6	9
子牛コース	9	8
肥育コース	8	7

(5)飼養頭数（Ｒ５．４．１現在）

生産牛	育成牛	子牛	肥育牛	計
３６頭	１５頭	６頭	３４頭	９７　頭

(6)　飼料畑　約７ha　夏：白ヒエ　冬：イタリアンライグラス

飼料確保目標　ロールベールサイレイージ　年間約300個（１個420kg）

- 優良種雄牛の交配による繁殖牛群の改良，更新
- 商品性の高い子牛を生産する
- 育成牛は月齢に見合った発育を図り、県畜産共進会へ出品
- 成牛の粗飼料は自家産ロールベールサイレージを給与
- 肥育素牛は自家産牛を主体に，一部セリ市で購入
- 肥育牛の濃厚飼料は自家配合飼料（前期，中後期）
- ビタミンコントロールを適切に行い，高品質牛肉の生産を目指す

生産班

【　目的　】

１　１年１産を目標に，飼養管理・繁殖技術を習得し生産性の向上を図る。

２　ステージに合った飼養管理と衛生管理の徹底により収益性の高い経営を目指す。

【　習得する知識，技術　】

１　飼養管理
　分娩管理，飼料給与設計
　施設・設備の改善

２　繁殖管理
　発情観察および発情誘起
　人工授精，受精卵移植
　妊娠鑑定，分娩管理

３　衛生管理
　ﾜｸﾁﾈｰｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ，消毒法

４　経営管理

受精卵移植実習

子牛育成班

【　目的　】

１　商品性の高い子牛育成技術を習得する。
２　ステージに合った飼養管理と衛生管理の徹底により，収益性の高い経営を目指す。

【　習得する知識，技術　】

１　飼養管理
　　哺乳技術
　　子牛育成管理マニュアル
　　施設・設備の改善
２　衛生管理
　　ﾜｸﾁﾈｰｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
　　子牛下痢予防ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
　　消毒法
３　経営管理

子牛の人工哺乳

肥育班

【　目的　】

肉量・肉質兼備の牛肉生産技術の習得

【　習得する知識，技術　】

１　肥育牛管理技術の習得

２　給与技術，防暑・防寒技術の習得

３　疾病の早期発見，早期治療

４　飼料栽培調製作業の習得

５　牛群管理，素牛選定技術

　　産肉・肉質等級知識の習得

６　糞尿処理，経営管理手法の習得

農大で生産した枝肉の断面

飼料班

【　目的　】

１　畜産経営のなかで，粗飼料の確保は極めて重要である。
　　堆肥の有効利用および適切な肥培管理等により、良質な自給飼料を安定的に確保する。

２　大型機械を利用した機械化作業体系による飼料生産技術を習得する。

【　習得する知識，技術　】

１　施肥等の肥培管理技術
２　作付時期および収穫時期の検討
３　安定した飼料生産技術の習得
４　飼料栽培調製技術の習得
５　作業体系および機械利用の習得

イタリアンライグラス１番草の収穫

実　習　等　の　様　子　（第42～45期生）

解剖学実習

除角実習

人工授精実習

採血実習

削蹄講習会

飼料作物収穫実習

家畜登録実習

人工哺乳実習

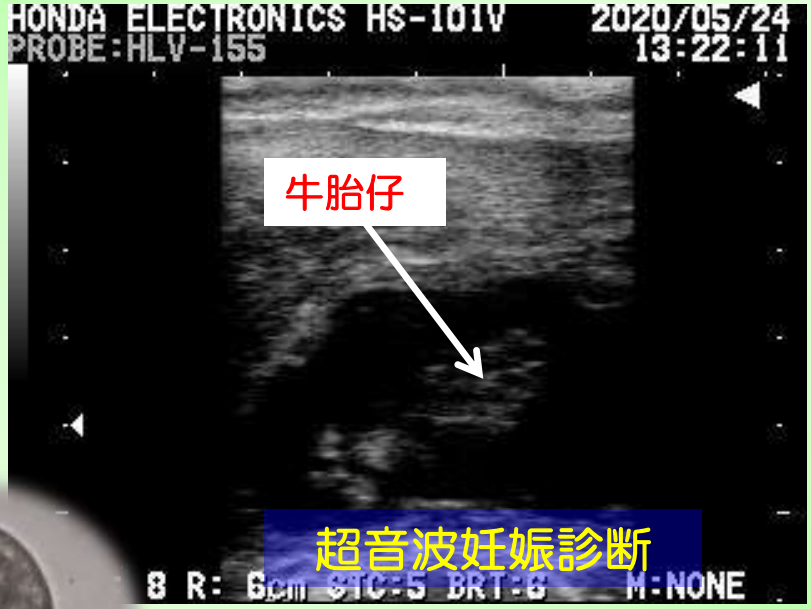
下痢子牛のふん便検査

枝肉調査

県畜産共進会への出品

分娩管理実習

受精卵の採卵



超音波妊娠診断

顕微鏡下の受精卵

経膣採卵

受精卵の検査

スマート農業の取組について

分娩監視カメラの活用

牛群管理装置の活用

海外研修：アメリカ西海岸（令和元年7月）

ハリウッドにて

ヨロランド

海外農業研修生の事例発表・意見交換

国内研修（北海道）R4。7月

行　事

農大祭の牛肉販売（１年生）

模擬店販売（２年生）

九州体育大会：R5は熊本県予定

全国プロジェクト発表会 ＆ ヤンマー学生懸賞論文・作文受賞

【全国プロジェクト発表会】

〇プロジェクト発表の部

優秀賞：農林水産省経営局長賞（Ｒ４）

最優秀賞：農林水産大臣賞（Ｒ元）

〇意見発表の部

優良賞:全国農大協議会長賞（Ｒ３）

【ヤンマー学生懸賞論文・作文受賞】

〇論文の部

優秀賞３グループ１０名（Ｒ４）

〇作文の部

銅賞５名・奨励賞２名（Ｒ４）
銅賞２名（Ｒ３）

肉用牛科へ

入学お待ちしてます